

リンパ浮腫予防指導に対する取り組み ～アンケート結果から見たこと～

静岡赤十字病院：プレストケアチーム
5-3病棟：白鳥 綾子

I. はじめに

当院では、乳癌術後患者にリンパ浮腫予防の指導をしている。患者さんがリンパ浮腫の発症を防ぐことができるように、医師・病棟看護師・外来看護師・理学療法士のプレストケアチームで連携し関わっている。またクリニカルパスに指導を盛り込み、スタッフ全員が共通した指導を行うようにした。

現状の指導内容で、患者さんがどれだけ理解し自宅でセルフケアを続けられているのかを把握するためアンケート調査を行い、その結果より見えた患者さんの理解度や現状を検討したので報告する。

II. 方 法

独自のアンケート用紙を用い、倫理的配慮に基づき行った。対象は平成22年1月から平成23年11月までの間に当院で乳癌と診断され、入院・手術を行った患者63名。病棟では、術後の指標となるよう術前に上肢可動域を確認し、上肢周囲を測定する。第1病日に、『乳がん手術後のリンパ浮腫予防と早期発見』という冊子を使用し、リンパ浮腫の病因・病態と日常生活の注意点について指導。第2病日に、理学療法士が、リハビリ指導を行う。そして退院後は外来にて、リンパ節郭清を行った患者のみへ再指導を行う。

III. 結 果

入院中のリンパ浮腫予防教育について、リンパ浮腫の病因・病態については94%、日常生活の注意点については、89%の理解が得られていた。しかし退院後になると、日常生活の注意点が守れている患者さんは83%となり。上肢を休める行為については、守れていない患者さんが23%いた。スキンケアについても実践できている患者さんは7割程度であった。

IV. 考 察

アンケートの結果から、約9割の患者さんがリンパ浮腫の病因・病態やセルフケアの重要性を理解できていた。しかし、実際に日常生活の注意点を守り、スキンケアを実施できている患者さんは7割に留まった。理解はしていても、日常生活の中で実施していくことは大変であるという現状が見えた。現状として、リンパ浮腫の病因・病態への理解は出来ても、日常生活の注意点の根拠がわかっていないため、日常生活で実践に繋がらないのではないかと考える。

当院では日常生活の指導に重点を置くよう指導を変更した。ドレナージはパンフレットを渡し、症状が出たら早めに受診するよう指導している。またポスターによる啓蒙活動など、患者さんの自己管理能力を向上させる活動もしている。そしてプレストケアチームとして指導内容を随時見直し改善を重ね、病棟と外来が連携をとり継続して指導にあたっている。

今後の課題として、日常生活の注意点の根拠を、患者さんが理解できるような指導が必要だと思われる。また高齢化が進み、患者年齢層も広がる中、働く女性の患者さんも増えている。患者さん個々の生活に合った指導が徹底されることが必要となる。

V. おわりに

アンケートの結果、現状の日常生活指導で十分な理解が得られていた。より高い実践度、指導の個別化、院内での統一化のために、今後も検討を行っていききたい。